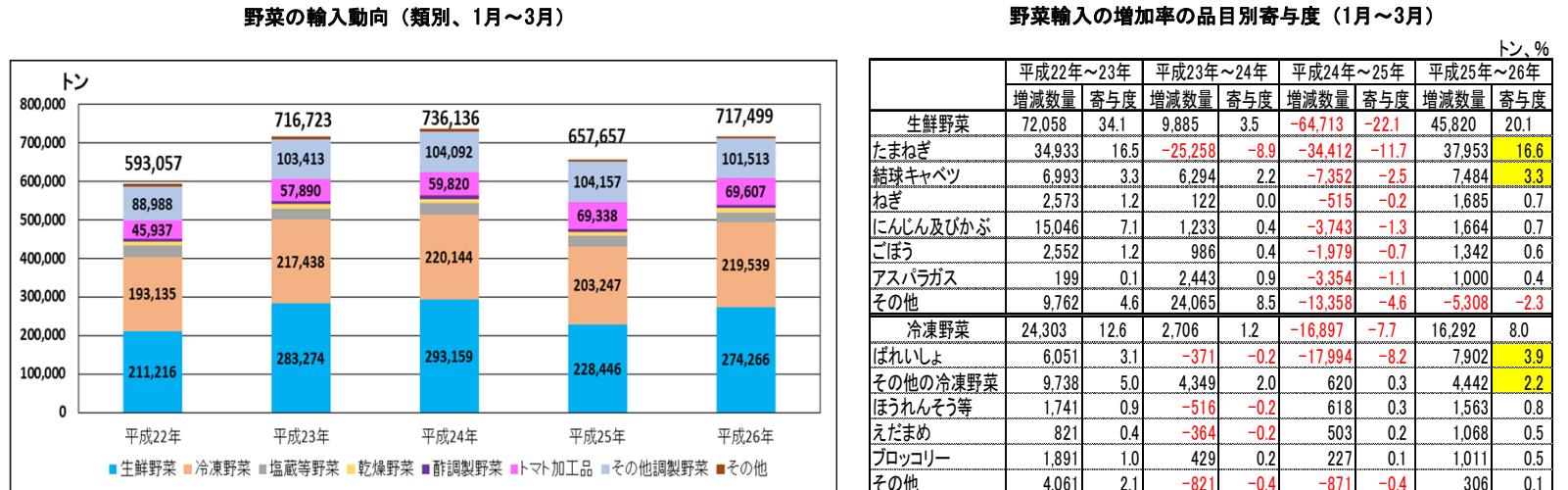


トピック — 野菜の輸入動向 (26年1月～3月) —

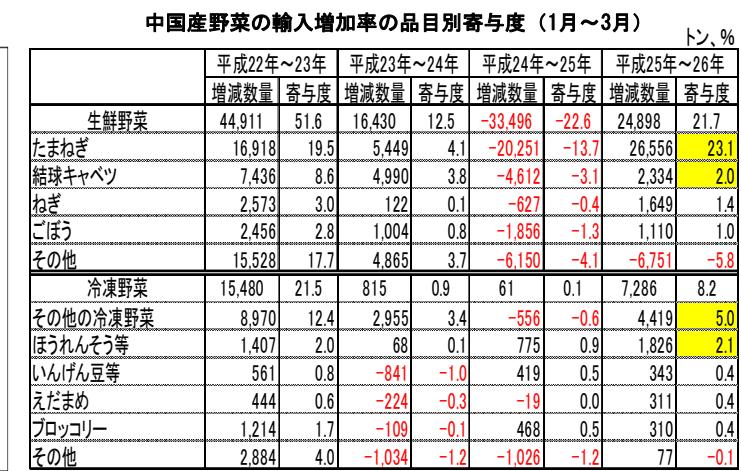
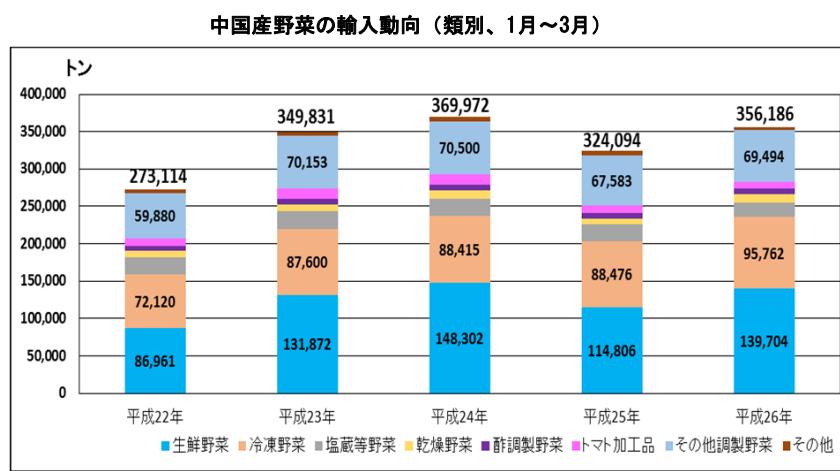
平成26年1月～3月の野菜全体の輸入量は、生育期の天候不順による国内産の減産等により、国内の生育が順調で輸入量が減少した前年に比べ9.1%増の71.7万トンと2年ぶりに增加了。類別では、生鮮野菜が同20.1%増の27.4万トン、冷凍野菜が同8.0%増の21.9万トン、塩蔵野菜、その他調製野菜は減少した。生鮮野菜の対前年増加率20.1%の内訳（品目別寄与度）を見ると、北海道産が小玉傾向であったたまねぎが16.6%、高値基調が一時続いたキャベツが3.3%と高く、同様に冷凍野菜の品目別寄与度では、昨年輸入量が減少したばれいしょが3.9%、その他の冷凍野菜が2.2%、ほうれんそう等が0.8%であった。

一方、同期間の約50%を占めた中国産輸入量は、前年に比べ9.9%増の35.6万トンとなった。類別では、生鮮野菜が同21.7%増、冷凍野菜が同8.2%増、乾燥野菜が同20.9%増、塩蔵野菜、その他調製野菜が減少した。同様に生鮮野菜の品目別寄与度を見ると、たまねぎが23.1%、キャベツが2.0%と高く、冷凍野菜の品目別寄与度では、その他の冷凍野菜が5.0%、ほうれんそう等が2.1%であった。

中国産の冷凍野菜品目別で最も高い寄与度となった冷凍ほうれんそうは、平成14年に発覚した残留農薬問題で輸入業者に対し輸入自粛等が求められ輸入量が大幅に減少したが、平成16年に中国側で栽培・加工の管理体制が整備された一部の生産企業等だけが対日輸出できる体制が整えられたこと等から輸入は増加基調を示している。



野菜輸入の増加率の品目別寄与度（1月～3月）



●問い合わせ先 独立行政法人農畜産業振興機構 野菜需給部 需給業務課 河原、斎藤、鈴木 TEL03-3583-9483、FAX03-3583-9484 ご意見、ご要望をお寄せください。

◆「野菜の需給・価格動向レポート」は月2回公表しています。公表時にメルマガでお知らせしますので、ご希望の方はベジ探のトップ画面、メルマガ配信登録・解除ボタンから登録してください。

★この「野菜の需給・価格動向レポート」は、http://vegetan.alic.go.jp/vegetable_report.html に掲載しています。